



中春別地区 CS めざす子ども像：【中春っ子 未来を拓こう みんなの笑顔】

教育目標：～自らの未来に向かって、目標を高く持ち、仲間と協調しながら前向きに挑戦する子どもを育てる～

校長 葛迫 勝秋

『 自己犠牲 』とは…

先日、野球選手の大谷翔平さんが球団移籍に関わり 10年7億ドルという歴史上初の大型契約を結びました。金額の多さに驚く以上に、私は大谷さんの手にしたお金の運用方法に大変感心させられました。自分の年収の手取りを少なくし、1000億円越えの受取の97%を後払いにすることでその分を球団の運営資金や選手補強にまわしチームを強くしたいという大谷さん自身の考えをもとに契約をしたということです。さらに、この契約前には数億円の自身の資産を使い、全国の小学校へグローブを提供しています。

一見、お金をたくさんもらったからそれくらいと思うところもあるかもしれませんが。自分も同じくらいのお金があったら同じことをするかもと思えるかもしれません。でも、本当に果たしてこのような行動ができるのでしょうか…。私たちの生活レベルで同じことを考えた時に、自分の財産を大谷さんと同じくらいの割合で世のため、人のために使えることができるのでしょうか。このことを考えた時にすぐさま行動できる人はどれくらいいるのでしょうか。人は少なからず自分にとっての損得を考えて行動することがありますが、大谷さんが財産の損得だけを考えていたのであればこのような契約や行動はできなかつたはずで、自分のことはさておき、周りのことを最優先に考えた行動だと思えます。

一部、報道では「自己犠牲」という表記で今回の契約内容を紹介している記事も散見されますがみなさんはどうお考えでしょうか。私は、大谷さんの何かを知っている訳ではありませんが、自身や人々が夢や希望、可能性を広げ、この先に繋げるための自己決定であって自己犠牲の表記には違和感を覚えます。どうしても金額が大きいのでお金の流動に目が行きがちですが、今回の契約方法で学ぶべきはその「精神」にあると思えます。

17

「自分の出来る範囲で周りの人のために役立つこと。」それは日常生活のなかでも私たちができることです。ちょっとだけ自分にとってのリスク（被害の影響の大きさや被害が発生する可能性）があっても周りのためにできる行動を少しずつ心がける。世の中、そんな精神をみんなが持ちあい共有しあえば、この先もう少し違う景色が見えてくるような気がします。

今年1年の世相を漢字ひと文字で表す「今年の漢字」が京都の清水寺で発表され、「税」の文字が選ばれました。今年は良くも悪くもこの漢字に関わる話が多いのは確かですが何か寂しい印象を持ってしまいました…。

令和5年もわずかとなりました。地域、保護者の皆様からの多分なるご支援、ご協力のおかげをもちまして本校の教育活動も円滑に進められることができました。どうぞ良いお年を迎えていただき、令和6年も引き続き変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。